

第2回新宿区文化芸術振興会議（第5期）議事要旨

■開催日時 平成31年3月25日 午前10時から午前11時30分まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 的場美規子 大野順二
中島隆太 大和滋 岡室美奈子（欠席 松島貴美子 舟橋香樹）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 村上文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文文化観光係長 唯野主任
加藤

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

- (1) 前回会議の内容について
資料1に基づき、前回会議（平成30年10月29日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 報告事項
新宿フィールドミュージアム2018年度報告書に基づき、実施報告を行った。
- (3) 調査審議事項
第5期調査審議事項について説明した。
- (4) 意見交換
- (5) その他

【以降、意見交換】

- ・新宿フィールドミュージアムを8年続けてきて、新宿区や新宿フィールドミュージアムに集まる皆さん方の意識が高まり、次のステップに進む時期だと思う。
- ・2020年から2022年にかけて、東西自由通路の開通、東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館の改修、住友ビルの大規模アリーナ、歌舞伎町にライブハウスや劇場ができるなど良いポイントの時期だといえる。
- ・歌舞伎町の東にある松竹、東宝の映画館など日本で一番お客さんが入っていると思われる映画施設があり、オペラシティ、歌舞伎町のライブハウス、新宿文化センターでは音楽があり、重要になる。西口の東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館とクリエーターズフェスタの美術がある。映画、音楽、美術がとんがってきている時期である。
- ・新宿駅周辺、神楽坂の伝統文化の企画、落合の染め物というように、フィールド

ミュージアムという基盤の上に、各地域の特徴を打ち出して、おもしろい転換を発信できるようなことがあればいい。

- 今回の審議事項の情報発信基盤の整備というのと、分野ごとに連携ができるはずなので、映画は映画、美術は美術、そういうので区立文化施設を中心として、どういう方向性と中身をどうしていくかという議論をしたい。
- いろいろなところにばらばらとさまざまな文化があるというのが、新宿区のよさでもあるのが、やっぱり全体としてどう見せるか、2020年にどう新宿に集客していくのかというところがポイントだと思う。
- 新宿フィールドミュージアムなどを中心に、どう見せるかというコンセプトづくりが、まだ見えてこないので、新宿区で具体的なプランなどがあれば教えてほしい。
- 新宿区は文化庁の予算を取りに行くのか、2020年をどう打ち出すのかなど議論できればと思う。
- 観光資源情報検索システムは多言語対応でやらないと意味がない。2020年4月からの運用に何とか多言語化を間に合わせてほしい。
- 外国人のネットワークへの発信は、どのようにしていくかなど計画はあるのか。
- 日本にいらっしゃる外国人の方が見るようなサイトのAll About Japanなどをうまく活用できればと思う。
- 中国などインフルエンサーの方の力は絶大と聞いているので活用してほしい。
- 2020年から先に向けて、新宿に来た人が、日本人、外国人にかかわらず、主要なターミナルにストレスなしに行けるような、そういう部分での情報発信や案内の仕方を、少しこれから変えていく必要がある。
- 新宿御苑方面、歌舞伎町方面、サザンテラス方面だとか、表示を戦略的に考え直すということも含めた情報発信基盤、それが区内の文化施設なのか、集客力の高いものなのか、というようなところも視野に入れていかればいいのかではないかと思う。
- Shinjuku Free Wi-Fiの多言語紹介、案内標識などの4カ国語などを充実させてほしい。
- 外国人の方は案内標識などを頼りに目的地まで行っているのだから、バリアフリーも含めて、新宿の東西自由通路ができることを視野に取り組んでほしい。
- フィールドミュージアム8年目ということで、来場者数とかイベント件数がどんどん増えているというのは、本当にすごいことだと思う。
- クラシック音楽は集客をいかにするかというのが物すごく今大事で、オリンピックまでは何とか頑張れるだろう、それ以降どうするのだということを、いろいろな分野で話し合われており、その中でどんどん増えてくるというのは、すごい。
- 新宿文化センターが40周年ということで海外のオーケストラのベルリン放送交響楽団とドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の2公演を実施する。
- 40周年の打ち上げ花火をした後に、新宿文化センターを、舞踊のほうにもっていくためにはどうするかということは、もう具体的に考えていかないといけないと思う。ちょっと舞踊も少ないし、日本のオーケストラの出演も少ないのかなというふうに思う。
- 新宿フィールドミュージアムのオープニングイベントが高島屋の特設会場で行われたことによって、イベントを知らなかった方たちも、多く足をとめて、大変盛り上がり、

まずよいスタートが切れた印象である。

- 「一shin一音祭」に関しては、来場者の感想がすごく好評価なものばかりで、ふだん、新宿文化センターを利用しない若者の層を取り込めたということは、非常に「一shin一音祭」の目的を果たせたと言える。
- 報告書で気になった点はスタンプラリーの意見で良い意見もあったが、例えば「スタンプを押す施設を増やしてほしい」とか、また「スタンプラリー対象のイベントがすごくわかりにくい」というご指摘もあり、少し検討していく必要がある。
- 区では東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えた「賑わい都市・新宿の創造」を基本政策の1つに掲げているので、オリンピックイヤーに新宿フィールドミュージアムの中で特にこれぞという目玉となるようなイベントをやはり打ち出すと、人々の記憶に残ると思うので、ただ、いろいろなことをやるだけではなく、その核となるものというのを検討していただきたい。
- 若者に関して、サポーター制度などで例えばファッションフィールドというイベントでは、モード学園の方々が多く参加していたり、オリンピックのイベントに関しては、例えば早稲田大学、桜美林大学、目白大学なども連携しているので、学生を巻き込んでイベントを開催すると、若者がすごく文化に触れる機会もふえたり、新宿区の魅力をもっと発見してもらえと思う。
- 文化的なプラットフォームづくりに関して、異なる文化施設が連携していくというのは、とても興味深い。
- 区のイベントだと、この企画だからこの会場、この施設がよいという固定概念にとらわれてしまうところがちょっとあるように感じているので、やはり連携をしていくということで、柔軟な発想が生まれると思う。
- 余談だが、例えば年末の紅白歌合戦で、米津玄師さんが、徳島県の大塚国際美術館で歌を披露され、その後、多くの方が美術館に殺到されたということもあるので、何かその、人を魅了するようなものをもっと発信できたらよい。
- 2020年大会以降に向けて、いろいろ施設が開館するときが、ハード面の充実だけではなく、ソフト面というのが非常に大事になるので検討して欲しい。
- 観光資源情報検索システムについて、新宿区の既存のホームページ上や新宿観光振興協会のホームページで見ることができたり、連動していればよい。
- 情報発信については、うまく一般の人がアクセスできるかが大事である。
- 外国人の方はターミナル駅を出て新宿観光案内所へ行きたいのになかなか行き方が分からないので、ターミナル駅を出たところに矢印などが必要である。
- オープニングイベントと「一shin一音祭」ほか、いろいろなイベントに顔を出して、どんどんと盛り上がっているなというのを肌で感じることもできた。
- ポスターも貼っていただいて、新宿フィールドミュージアムの存在というものを箇所箇所で見ることができたり、新宿フィールドミュージアムの存在というものを箇所箇所で見ることができたり、そんなことができた。
- スタンプラリーも、問題はまだまだあるが、期間を延長することによって、参加する方も、もともとがちょっと少なかったかもしれないのが、倍になったということは、とても有効だった。
- 新宿サンクチュアリがこれから公表されるということをすごく楽しみにしているので、

またいろいろな発信の仕方があっていいと思う。

- 情報発信の基盤整備について、バリアフリーということがすごく大事だなと思う。設備面でもそうだが、文化に対するバリアフリー、そして言語に対するバリアフリー、それからいろいろなことに対してバリアというものが除けるということが、とても大事なと思うので基盤のところでは取り組んでほしい。
- 情報発信についていつも話題になっているが、どうしたら、こんなにいろいろやっているのになかなかアクセスがないとか、わかってもらえないというところの整備をすることは大事である。
- インフルエンサーを使おうという話も出ているが、区内には大学があるので、大学を使うことも大事である。
- 「立っている人」という表現があり、例えばミスコンだったり、いろいろなもので箇所箇所で活躍している人たちがいるので、その人たちが発信しているものにたくさんの人がご覧になることが多いので、その「立っている人」という人に、力を借りるということもとても大事である。
- SNSは本当に力が大きいので、いかに取り組んでいくかというのは、とても課題である。
- 新宿文化センターのハッシュタグとかを開くと、全然アクセスとかがない。一方で別の東京芸術劇場なんかを見ていると、もっといろいろあったりする。
- 「-shin-音祭」がいいイベントになって、いろいろな告知もできたので、新宿文化センターのところで、ツイッターのようなものをつくって、そこに上げていただくと、今何々をやっていると、タイムリーなのが入ると、「あ、こういうのをやっているんだ」というので、また見てもらえる方も増えると思う。
- 今の発信は、とりあえずやっているということをはっきりとだけ、そこに参加感がないというのが問題で、「じゃあ行ってみようかな」と思えるような、そんなことをツイッターとか、そういうものも活用しながらできるといい。
- 施設間の企画連携について、区立だけでなくいろいろなところが提携するほうがもっと幅が広がると思う。
- 他の美術館や音楽のところではやりの企画の中に刷り込ませてもらうと、色々と目にするのができていい。「あ、それに関連して行ってみようかな」ということがあるので、美術だけ、音楽だけとか、そういうことではなくて、いろいろなところが連携できるように、箇所箇所に仕込んでいくということも大事なのかなというふうに感じている。
- アニメの「文豪ストレイドッグス」とコラボレートしていたので、新宿の歴史博物館に行ってみたが、今までお会いしたことのないような若い子たちに、結構お会いすることができた。「あ、ここにこんな施設があるんだな」ということを耳にすることもできたし、「あ、きれいだね」とか、「ここ、また来ようか」なんていう話もチラチラと話が聞こえてきたので、そういったアニメの力を借りるということも1つの方法ではないのかなというのを感じた。
- 歴博を知らない人にも歴博があることを知らせるとか、ほかの若者イベントも、要するに情報発信というものをどういう形でやっていくかが知恵の絞りどころである。
- 資料4-4「施設間連携の新宿区の具体的な取り組み事項」について、資料館がどこ

とどこがあるという、これは新宿フィールドミュージアムの中に入っているものから選ばれていると思うが、そこの関わりについて詳しく知りたい。

- 施設間連携をやっているということ、諸施設に言ってもらえることは大事なかなと思う。
- 施設間連携の区の具体的な取り組み事項について、対象とする文化施設について、国とか都とか、私立、プライベートなもの、何か原則を持っているのか。
- 施設間の企画連携について、原則がないと、非常に施設が多くなり、ますます負担がふえるのではないかな。
- 重要な問題になっていると思うのは、どう発信していくかと、発信力の弱さが課題として挙げられている。
- ターミナル駅の利用客への対応や、アニメの宣伝への利用と、こういうのがあるよというのに注目したい。
- どんどん新宿フィールドミュージアムが非常に拡大してきて、大変に存在感のあるものになっているが、どんどん団体やイベントが増加していて、大丈夫か心配。
- あるところで見直すというか、増加がいいというばかりではないのではないかな。むしろ、ある点に絞ってその年は集中的にやるとか、そういうことも考えたほうがいいのではないかな。
- 2020年に限ったコンセプトということ言えば、ターゲット化したほうがいいのかと思う。多様性のまちである新宿を、例えばアジアからのお客様を新宿が引き受けますぐらいの勢いでいくとか、あとはやっぱりLGBTとか、さまざまな意味でのその多様性ということ打ち出すのがいいのではないかなというふうに考えている。
- 新宿フィールドミュージアムについて経年変化を見ると、いろいろな形で改善がなされて、それを着実に事業にフィードバックしていくことで、継続は力というか、進んできて、それなりの存在感も出てきたと思う。ただ、やっぱり時間がかかるなというのも、よく感じる。
- 当初、新宿フィールドミュージアムは、そもそも役所が全てをやるとか、役所が先導して何かリーダーシップをもって企画をしないと、そういうようなことではなかった。むしろ、関係者の方々がやりたいことでなかなか単独ではできないところを、プラットフォームを提供する、プラットフォームというところを狙ったのかなというふうに思うが、なかなか自発的な試みというのが出てこない。
- 報告書を見ると、その協議会参加団体連携を図るために、役所にこんなことをやってほしいとか、こんな新しい機関を設けてほしいとか、そういうリクエストは出てくるけれど、明らかに自走化することにつながるような、自分たちでこんなことをやるので、やらせてほしいみたいな意見がほぼない。
- まだ役所が用意してくれるのであれば、そこに乗りますよぐらいのところかなというところから、結構長くやってきた割には自走化できないと思う。
- 自走化できていない理由はやっぱり現実、人もお金もないし、その中で活動していかなければならないという弱小態勢ということもあるのかもしれないが、ここまで効果が見えてきて、割と広報の広がりとかに期待もあるし、実感もされていることがわかっていながらも、まだ自走化できていないところがちょっと残念である。もう少し時間がかかるのかなという感じがする。

- 2020年待ったなしだが、この2020年というのは、補助金が大きく落ちてくる年ではなく、お客さんがたくさん来るので、もしかすると、そこに新しいマーケットを見出すすごいチャンス。
- みずから頑張ってお客さんを、あるいはマーケットを取りに行っていきたいという気持ちがあるが、なかなかそこまでちょっと、今のところっていないと感じる。
- 連携というのは非常に重要なテーマだと思うが、連携もまだ情報交換レベルである。何をやっているか、お互いに知ろうかレベルのところまで終わっている。
- ヨーロッパでは、オリンピックで大成功したという喧伝されているイギリスも含めて、今、文化はノンエッセンシャルサービスというふうに言われている。ミュージアムからライブラリーから劇場も、お金はマーケットで稼いでいっていいという方向に大きくかじを切っている中、連携というのがもっとシリアスになっていて、ミュージアムとか劇場とか、公的な施設はみんな一定程度同じ事務がある。総務とか企画とか、給与計算とか、そういうのはもう大体一定の同じようなルーティンなのだから、そこを個別にやっている必要はないので、そこを連携する。
- 共通経費をまとめることによって、かなりの共通事務費を減らして、できるだけ展示とか、ほかの活動のお金を減らさないように努力をしていく。
- いずれ2020の後、きちんとした足腰が立っていないと、劇場もミュージアムも芸術団体もなかなか難しい時代が来るのではないかなということを想定しながら、この2020年をよいチャンスとして生かしてもらおうための仕組みをつくりたいなというふうに常々思う。
- サポーター制度を導入後、じゃあボランティアを使ったかということ、ほとんどが使っていない。
- ボランティアさんを使うに当たっても、何をどういうふうにするのかという趣旨も明らかにしなくてはいけないので、その分コストがかかってしまうところもあると思う。なかなか準備をしても、条件整備をしても、乗っかってこられるほどの体力もないというのが非常に、現実としては残念でもあり、深刻に捉えて、どこまでサポート、さらに踏み込むのかということは考えたほうがいいのかもしれない。
- 劇場については、認知度が低い。去年、インターネット調査を実施した結果、新国立劇場でさえ、全国区で認知度が50%あるかないかぐらい。つまり、あまり興味がない人が半分ぐらいいる。
- 新宿文化センターについて、新宿区で区民に聞けば、そんなことはないと思うが、割と興味のない人はいるということと、特に劇場の場合は、不利な点が多くて、その時間、その場所になくってはパフォーマンスを見られないということもあって、この不利な中でニッチマーケットをいかに確立するかというビジネスモデルなのかなというふうに思う。全員に知ってもらおうというマスマーケティングは、ちょっと難しいのではないかなと思う。
- 情報発信は重要だが、普通の情報発信よりもいろいろな配慮が必要な分野である。
- 今後、どういう形で何を議論しながら、この2020年に向かっての事業の拡充、工夫をしていくのかということは、これからの議論になるかなと思う。スピード感をもってフィードバックできるものはフィードバックできるような形で、まとめていきたい。

- うまくマーケットを意識しながら、それぞれの必要経費で節約をして、これはどういう形が考えられるのか。どこが中心になってやるかということが問題だと思う。お役所に言うのか。
- 国のものはもう国がやっているから、区立のものについては、区立の博物館とか劇場があって、これまでは劇場は劇場で、ミュージアムはミュージアムで実施していた。指定管理の財団がということで、それぞれの人員体制を配置されていたのだと思う。そこにもう踏み込む時代が来たのかもかもしれないという感じがする。
- 国の場合は、独立行政法人の2つに分けて、劇場関係は劇場関係で、ミュージアム関係はミュージアム関係と、それも2つに分けて、博物館系と美術館系で合体させたのだが、恐らく、今後は東京都はどうするのかとか、新宿区内でどうするのかとか、そのとき、ミュージアムと劇場だけなのか、ライブラリーはどうするのかとかいうのも出てくる。それぞれの地域にあるホール、小さなホールをどうするのかとか、そういうところも多分出てこざるを得ないのかもしれないと、ヨーロッパの事例を見ていて思う。
- 共通経費について、うまくそれこそ連携して余計な所をカットしてできるような形ができるのかどうか、知恵の絞りどころ。確かにそれぞればらばらに全部管理していると、それはできれば一緒にしたほうが良いという部分もあると思う。
- 新宿フィールドミュージアムが大いに発展してきたと。しかしここからの問題として、特に体力が弱い、つまり人員不足であるとか、特に発信力が弱いという問題、それを皆さんが非常に気にしておられて、確かに大事だと思う。その発信力をどうやって高めるかということについて、中身のやり方とそれから量的にどうするかという問題がある。
- 新宿フィールドミュージアムの大変いい報告書ができたので当然報告書として完璧なニーズがあるが、一般の方にああいう形か、もう少し別な形、目に届きやすいようにするのはどうしたらいいかと思う。
- 『新宿plus』は無料配布でたくさん情報が入っているが普通の人はどうやって手に入れられるのか。手に入れば、なかなかおもしろいと思うけれど、配布については民間の力も借りるかもしれない、お役所の窓口だけではとても無理だと思うので、考える必要がある。
- 最近は情報がSNSだったり、電子媒体だったり、印刷媒体とある。前からどれがという問題があるが、両方とも必要である。
- 若い人はもっぱら電子媒体、もしくは世代によっては紙の印刷物が欲しい。その人々にどうやって通じるかということ。その辺は今、お役所でも、それから財団でもよくやっている。中身をよくつくって報告書もできて、それを多様な一般の人にどうやって知らせるか、そこが今、非常に大きな問題で、まして外国の人だと、もっと何だかわからないだろうから、多くの人が来るときにどうつなげるかという課題がある。
- フィールドミュージアムが大いに発展してきた。しかし、もっといろいろなことができるし、広がりや、みんなに知らせていく必要がある。今日の皆さんのご意見でも今の情報発信をどうするかということが、やり方も含めてあったと思う。これからお役所にも、それから我々も含めて考えていく問題だろうと思う。
- 新宿区の『新宿plus』は日本タウン誌・フリーペーパー大賞の自治体PR部門で最優秀賞に輝いた。内容も素晴らしく読んでいて楽しいので設置場所とかを考えながら、

より多くの方に見ていただければと思う。

- イベントがあったときに、イベント関係のことは調べるけれども、『新宿plus』は、地図も出ているし、おいしそうな食べ物屋さんも出ている。便利だと思う。全く関係ない人もいろいろ来る、外国の人なんかもわかるし、それがうまくつながるように、そうすると情報が流れる。
- 平成31年3月23日から24日で新宿文化センターでNHK「のど自慢」が開かれたと思うがその盛り上がりについて教えてほしい。
- 「のど自慢」の機会に、ついでに来たお客さんに、ふだんはどういう音楽会があるとか、こういうものがありますよということをやうまく知らせるような工夫が必要。
- 新宿は待ち合わせ場所の目印になるところがないまちだと有名なので、どこかにゴジラのモニュメントがあるといい。ゴジラの目の前に観光案内所があるなど、今後の観光特使としてのゴジラというのは、どういう方向性でお考えになっているのか。
- 忠犬ハチ公といえば、わかるので、そういうスポットをどこかにつくる必要があるかもしれない。ゴジラの場所に行くとか、自然にできるのだと思うが、大変大事なこと。
- 新宿フィールドミュージアムで何かテーマをもってやったことはないので、もう間に合うかどうかは別問題として、何かやってみるのはいいかなと思う。
- ゴジラも日本独特だし、アジア、日本とアジアみたいなテーマ。そうすると、いろいろな日本とアジアとの交流という面では、博物館の歴史的なところも生かせるし、大学もだろうし、オーケストラにアジアのソリストが今いっぱい出てきていらっしやるし、演奏家もいっぱいいるし、そういう方たちが出るようなことを何か企画するとか。美術館もアジアの美術とか、そういうのもあるし、何かそういうターゲット化ができると、発信力は高まっていくのだろう。
- 新宿は特異な場所になっているから、新宿フィールドミュージアムで、今年は無理だから来年に向けて、そういうことがやれるのかどうか。
- オリンピックに向かってここに住んでいるアジアの方々の問題もあるし、世界から来るアジアの観光客が集まってきて、今後の日本というか、東京の展開というものを考える上で、かなり重要になってくるし、多様性という観点からもおもしろいと思う。
- どこまでできるか、パーフォーミングアーツもやりやすいし、どうか、アジアのアーティスト、アジアの作曲家とか、そういうことをオケでやれるのかどうかとか、ポップス系は結構あると思うし、そういう取り組みをしているところまで資源が広げられないのか。新宿のカラーを考えると、あると思う。
- 新宿文化センターは音楽や舞踊がメインということでクラシックに限っているわけではなく、子どもの歌やJポップをやってもいいので、うまく使える場所にしたい。
- 池袋の芸術劇場の前で、野外劇場みたいなのをやっているということで、新宿に欲しいなと思う。ステージの上には屋根がついているという感じの模型だったが。新宿区にもあればいいなと。
- 運営はわからないが、住友ビルの下がどういう使われ方をするか。屋根だけある、2、3千人入る広いスペースができる予定。あそこは新宿の西口が変わるインパクトになっていく。住友さんがどう考えるかわからないが、ほかの団体が借りようかと思っていたのだけれど、なかなか仕様がわからないが、かなり大規模な野外ステージができるはず。

あそこが使えるようになるのではないか。